

令和4年4月12日（火）

浜北文化センター（小ホール）

1 顧問校長挨拶 浜松中部学園 鈴木 伯 校長

ロシアによるウクライナ侵攻やコロナ関連のニュースが多くなっている。平和や差別について考えられる機会が増えてきている。また、学校ではタブレット端末を利用した学習が進み、便利になった一方で、個人情報保護が問題になってきている。基本的人権の尊重、子供たちの権利があってこそその教育である。学校教育における人権教育を今後も大切にしてほしい。

2 講話「第2次 浜松市人権施策推進計画について」

浜松市人権啓発センター所長 白柳 寿明 様

人権は身近で大切なものであり、思いやりの心で成り立っている。今年度の政策目標を「思いやりあふれる社会の実現」とした。アンケートの結果から、人権が必要だと思っている人は多いが、他人の人権を尊重できていると思う人や人権意識が定着していると思っている人は少ないことが分かった。そこで今年度は人権尊重意識の定着を目標にした。そのための事業を実施していく。そして、正



しい知識を理解した上で人権を身近に感じてほしい。幼児や児童、一般市民へ人権を広めていくために、人権便りの発行や研修に取り組んでいく。また、分野別施策の取り組みでは、人権の分野ごとに取り組みを進めていきたい。性的マイノリティの追究は昨今の状況をみて追加した。これらの施策を通して人権意識の定着度を30パーセントから50パーセントにしていきたい。

3 講話「人権啓発センターの具体的な取り組みについて」

人権啓発センター 土屋 守 様

人権教育とは何をすればよいのか。ウクライナの事件でも人権という言葉が数多く流されている。日本は人権問題を国や政府が示している。子供の人権、女性の人権、高齢者の人権、障害者の人権、部落差別、大震災で避難してきた人の人権など、差別や偏見をしてはいけないことを啓発することが人権啓発センターの仕事である。部落問題などの人権問題を知らないで話したことが人を傷つけてしまうこともある。



学校における取組として人権教育指導者研修会を年に3回実施する。管理職、人権担当、市の職員の人権担当を対象に研修を行う。8月5日に人権担当を対象に行う。研修では小説家のいぬじゅんさんの話を聞こうと思っている。管理職には9月に発達障害について研修を行う予定である。

冊子の内容について、いろいろなところで講話をしている。ぜひ読んで理解してほしい。人権問題を解決する一番の近道は正しく知る、正しく理解するということである。

人権啓発センターで作成した人権絵本を各学校に配付した。昨年度のテーマはジェンダーであった。本年度は情報モラルである。SNSをどう使えばよいかを子供たちと考えられる内容になっている。ぜひ話し合ってもらいたい。クリエイイト浜松の1階にある人権啓発センターにはこのような内容の本やDVDが数多くある。ぜひきてほしい。本は約1000冊、DVDは約80枚ある。借りることもできる。

人権も出前講座をやっている。対象は教職員やPTAや子供でもよい。講演の内容も相談をしてくれれば対応できる。(セクハラ、体罰、性的マイノリティなど)先生方も人権担当になったので人権について職員会議などで資料を配付したり話をしたりしてほしい。

4 指導講評 浜松市立中部学園 鈴木 伯 校長

今年度のテーマが示された。自校の職員に人権教育の方向性をしっかりと示してほしい。